

農業委員会 だより

発行:新島村農業委員会
 編集:新島村農業委員会広報部会
 (今期担当:宮川源治郎、北村一男
 横田泰一、池村達子)
 農業委員会事務局(役場内)
 5-0284(直通)

く開墾しやすいような農地もあり、どこにおいても耕作者不足が問題であると実感しました。

式根島における耕作者の増加は、資材等の入手手段、島外への出荷・販売ルートの確保等、島特有のハンデだけでなく、新島・若郷地区と比べ負担差のない営農しやすい環境作りが必要です。

また、式根島は農業振興地域(農地として保護されている地域)が点在し、農道や農業用水の整備が難しい状況です。



農業振興地域の様子

農業委員会は、毎年農地の利用状況を調査しており、必要に応じて農業振興地域の見直しを行う予定ですが、それには農地所有者の承諾が必要になります。農業振興地域への編入や除外は、所有

者にとって良い面だけではなく、活用方法により異なってきます。

農業振興地域に編入することで、農道や農業用水などの基盤を整備することが可能になりますが、宅地等の他の地目に変更が出来なくなります。

農業委員会が農地の見直しのために、住民の皆様に見解の聴取等お願いすることもございますが、その際は「協お願いいたします」。

今後、式根島・本村・若郷の3地区の異なる地域性を念頭に置き、村における農業環境を少しでも良くできるように努めますので、些細なことでもお気軽に委員(3地区合わせて、十六名おります)へご相談ください。



式根島のイチゴ農家さんと言えば、綾真吾さん。伊豆七島の中でも、イチゴを主体で栽培を始めたのは綾さんが初めてのことです。

現在は、式根島内の商店、本村地区の農協やスーパーに加え、飲食店等、島内を中心に出荷しています。イチゴの時期はこれからですが、少しずつ色づき、美味しそうな苺が実り始めています。

畑での注意

何度か「農業委員会だより」でもお知らせしましたが、農家の方が悩まれている現状：悲しいことに犯罪の件数は減っておりません。ルールを守っている住民の皆様には申し訳ありませんが、改めて注意喚起をさせていただきます。

◆畑でも不法侵入は犯罪

農家の方は、毎日畑の農作物を確認しているため、どんなにこっそり入っても分かります。フェンスやネットが張っていても、他人の土地には入ってはいけません。必ず許可を取りましょう。

また、農業委員会を介して所有者と「農地貸借」の契約を結んでいる場合、その畑に入る場合は借りている耕作者の許可が必要となります。

◆農作物の無断持出は窃盗罪

作物は勝手に成長する訳ではありません。農家の方が毎日、肥料やお水をやり、虫の除去や草取りを行い、子供の様に育てています。

現金を盗むことと比べ軽く感じるかもしれませんが、費用はもちろん、労力、盗まれたショックを考えると、お金に換えられないことをご理解ください。



苺ハウスでの栽培講座

農業委員会の委員として意欲的に活動している綾さんですが、もう一人の式根島在住の委員である池村達子さんも畑仕事に精を出しています。



池村商店の通り沿いにある農地

現在は、ハウスを新設すべく新しく農地を開墾しています。とても立地が良く広いので、今後の池村さんの育てた作物が地産地消の一環として式根島の店頭にも並ぶのが楽しみです。

◆私有地の枝や木の伐採

「木」については、個人所有の畑の場合、自分の土地に生えている木以外、切つてはいけません。

木の「根」の場合、所有者の承諾を得た上で、自分の土地に侵入してきた部分を切ることは可能ですが、「枝」の場合、所有者に状況を伝えた上で、所有者自身に切ってもらう必要があります。

◆樁の木の採取は官地もしくは自分の所有地のみ

毎年、「樁の口開け」について放送していますが、その「口開け」とは官地(村有地)における樁のみです。個人所有の畑では、いつでも採つて頂いて構いませんが、所有者の方のみとなっております。今年は堂々と梯子を持ち込み、盗難したケースもあつたようです。樁は他人の土地では採取してはいけませんので、良識ある行動を持って採取してください。

農業者の皆様へ

盗難等の被害に合われた方は、農業委員会でも相談は受けられますが、上記のようなケースは事件となりますので、**新島警察署(5-0381)**へもご相談していただくと共に、「自身でもネット等による盗難防止策を強化してください」。

農協インフォメーション

新島村農協では、新鮮なお野菜をご用意しております。季節により、品数や種類は異なりますが、置いてくださる農家さんも増え、品種も多くなりました。木曜日にはお弁当やお惣菜も販売していますので、ぜひお立ち寄りください。



明日葉・キヌサヤ・人参・キャベツ・ピーマン・トマト スティックセニョール・聖護院大根・モロッコインゲン等



今年の猛暑・台風

・雨不足により…



さといも(久田巻城ノ下)

今年の久田巻城ノ下は台風の影響も大したことはなく、風については心配なかったのですが、雨不足による作物の生育不足が目立ちました。特に里芋は、植え付けからしばらくは成長がよかったのですが、茎や葉がだんだんと小さくなり生育が止まった感じがしました。

自然の脅威はすごいもので、うちの畑も皆さんと同様に被害がありました。露地栽培については台風十三号、十四号でキュウリ2回、アスパラ1回、特にひどかったのが秋植えジャガイモで、約3割が風、塩により葉、茎、が痛手を受けま

した。台風通過までの時間、夜中の2時に起き、散水しましたが自然には勝てませんでした。



台風通過による被害（ジャガイモ）

ジャガイモは昨年被害を受けていたので病気が心配になり、すぐに農業普及員の先生に連絡して消毒したため、被害を最小限に留められた気がします。



3日後には新しい芽が復活！

今は、昨年同様7月24日に種をまき、8月に接ぎ木、9月に植え付けを終えた

3月1日に玉レタスの種まき、4月8日に本植、5月2日〜23日にかけて収穫し、次のレタスを4月20日に種まき、6月1日に本植したものの、育ち方が早く、ギョツと固く丸まりません。3回目のレタスは8月10日に種まき、9月10日に本植、11月中旬頃から収穫します。



レタス・キャベツ

野菜作りは気候変動でだいぶ異なってきましたね。現在ハウスの建築を準備しており、今年度中には完成予定です。早くハウスが出来れば、いい方向に向いてくるかな、と思っています。（池村達子）

今年もいない 園芸農家の形

最近、若い女性たちの間で『多肉植物』が静かなブームです。

トマトが、全体的に花が満開になっており、11月中旬から出荷しています。

トマト2ハウス目も10月初旬に種をまき、台木穂木共に順調に成育しているので、11月接木、後半には植え付けし、4月出荷をめざします。



トマトの様子（若郷：1ハウス目）
（黄色い花が咲いています）

現在、里芋を出荷中で、秋野菜や玉ねぎも、来年にかけて2万株以上を植え付けてあるので、順次でき次第出荷します。（北村一男）

新島：今年の台風被害

秋野菜も植え付けを終え、一段落と思いきや、我が家の畑は先の台風25号でトマトはなぎ倒され無残な姿です。

多肉植物といってもあまり馴染みがないかもしれませんが、皆さんよくご存知のサボテンも多肉植物の一種です。



様々な種類の多肉植物

ただ、ここで紹介する多肉植物はサボテンではなく肉厚な茎や葉を持つ、まるで花卉のように華やかな観葉植物です。

今、新島にも多肉植物を栽培し新種の開発まで手掛ける人達があります。

公文宏司、聡子さん夫妻（屋号＝宮藤）は5年ほど前から多肉植物の栽培と新種の開発をはじめ、現在インターネットを利用したインスタグラムの世界（写真を投稿して他の人たちに見ってもらう）で人気者になりつつあります。

外国から取り寄せたタネを3年ほどかけて育て、株を増やし、自身で交配させた新種も含めて今では二千種類を超える多肉植物を所有しており、自宅庭の



なぎ倒されたトマト

トウガラシ、ピーマンも同様。ただ、植え付けた野菜類は防虫ネットのお陰で助かりました。



上部が枯れてしまったトウガラシ

トマトは、種を購入し、苗から自分で作りましたが、開花時期に台風に遭い、下の1・二段目は実付きが悪く、それ以下

温室には入りきれないほどのたくさん多肉植物の株が並べられています。



多肉植物の温室内部

最近、観葉植物を扱う専門店からの問い合わせが来るようになりましたが、現在使用している温室の広さでは年間に二百〜三百株を増やすのが精いっぱい、2軒のお店しか対応できていません。



温室に入りきれないほどの多肉植物

降がやっと色付いてきた所だったので、ある程度の予測はしていたものの恨めしい限りです。露地栽培の悲しいところですね。私だけではなく、被害に遭われた方もいたのではないのでしょうか。

毎日てんやわんや

ただ、励みは、孫の「ジイジのお野菜は美味しいね」の言葉。このひと言と笑顔でまた奮起して、畑仕事に向かっています。（宮川源治郎）



玉ねぎの様子

他にもいくつかの専門店から依頼があり、生産を増やすために『宮藤』の畑にあるビニールハウスの一棟を多肉植物専用改装する計画を立てています。出来上がれば今の5倍ほどの広さを確保することができ、納品依頼を受けている他の専門店からの要望にも応えることができるということです、今後が楽しみです。（横田泰一）

式根島の視察

十一月の総会は、式根島で行いました。



開墾しやすい農地（右）

式根島の農地の状態を確認するため、農振農用地域（農地としての保護地域）を中心に農地を見て回りました。

式根島にも、完全に山林化した訳ではな